

令和元年度 徳島県立徳島北高等学校 学校評価総括評価表

1 本校の学校経営の基本方針

生徒がはつらつと活動する活力ある学校づくりと保護者・地域社会から信頼される学校づくりに取り組み、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身に付けることができる教育の実現に努める。

2 本年度の重点目標

- (1) 自ら学ぶ姿勢と自主的・自律的な行動力を育成する。
- (2) 人権を尊重する豊かな心を育成し、好ましい人間関係を築かせる。
- (3) 授業の工夫・改善と充実に努め、確かな学力を身に付けさせる。
- (4) 生徒一人一人の個性や創造性を伸長させて、進路希望の実現をめざす。
- (5) 国際的視野を持ち、地域社会に貢献できる人材を育成する。

3 本年度の各課・各学年・各教科の取組

ア 企画課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 総合的な学習（探究）の時間の充実を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	担当者の共通理解を図ることは極めて重要であると考えられる。集まることのできない場合は、文書を回覧する工夫も必要である。	①探究活動の充実は、育てたい生徒像や教育目標を教員間で共通理解をする必要がある。また、他教科との関連を明確にし、生徒のキャリア形成に繋げたい。
	①アンケートを実施し、探究活動が生徒にとって充実したものであったか、当初の目的が達成されたかを見る。「充実した」あるいは「満足している」の回答が90%以上である。	①アンケートで「満足している」と答えた生徒の割合は、1年生86%、2年生82%、3年生90%であり3年生は目標を達成しているが、1・2年生は目標数値を下回った。	(評定) C		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①K-TOPの探究活動は、さらなる充実が求められる。教員の共通理解が必要である。		
2 授業での効果的なICT活用を推進するとともに、アクティブラーニング型授業を取り入れ授業改善を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	ICT機器活用例は多数あるはず、先行事例を大いに参考または、まねてよりよい方法を研究すべきである。	①②③今年度は各教科で事例集を作成した。アクティブラーニング型授業を取り入れた授業改善は、職員研修会を開く必要がある。
	①ICTを活用した授業が70%以上である。 ②「ICT機器を使った授業は、あなたの興味・関心を高めている」と回答した生徒の割合が80%以上である。 ③「ICT機器を使った授業は、あなたの理解を深めている」と回答した生徒の割合が80%以上である。	①「授業においてコンピュータ機器を有効に活用している」で「あてはまる」「ややあてはまる」の回答が、90.2%であり活用できている。 ②「ICT機器を使った授業は、あなたの興味・関心を高めている」と回答した生徒の割合は、78.2%で目標をやや下回った。 ③「ICT機器を使った授業は、あなたの理解を深めている」と回答した生徒の割合は、81.9%で目標値をやや上回った。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①電子黒板の活用については、3年目を迎え多くの教員が活用できている。今後は教材の共有化を図りたい。		
	①授業参観週間等で、効果的なICT機器の活用を研究する。 ②ICT機器を活用した指導事例を、各教科で作成する。 ③座席の配置を工夫しペアワークやグループワークがしやすい環境を整える。	①活用研究をする機会があまりなかった。 ②各教科に事例集の提出をお願いした結果、14の事例集を提出してもらった。生徒用タブレットを活用した事例もあった。 ③座席の配置は、クラス人数や事情により様々であるが、ペアワーク等がしやすい配置をお願いした。			

イ 総務課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 PTA行事を精選し、内容を充実させることにより	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		①人権教育・癌予防に関する映画等の情報をホームページに掲載し、保

活性化させる。	①生徒の新しい時代を生き抜く力の育成を支援するために、保護者に有効な情報を提供できた。 ②学校評価アンケートの、「PTA行事の趣旨説明や活動についての連絡は適切である」について「適切であった」と回答した保護者の割合が70%以上である。	①PTA会員からの情報提供も頂きながら、人権教育や癌予防に関する3件の情報をホームページに掲載し、目標を達成した。 ②「PTA行事の趣旨説明や活動についての連絡は適切である」について「よくあてはまる」・「ややあてはまる」と回答した保護者の割合が82.1%あり、目標を達成した。	(評定) B	護者に対して情報提供を行った。地域の会場で開催された研修会であり、保護者も参加しやすいものであった。次年度も継続していきたい。 ②今年度の学校評価アンケートでは目標を達成した。しかし、次年度は3月の第2回理事会を開催しない。効率的な行事運営のために、趣旨説明や役員間の連絡方法について、電子メールの活用等検討が必要である。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 家庭教育研修部が行っている大学視察研修や校内講習会実施後の参加者に対するアンケートでは、ほぼ全員が次回も参加したいという回答であった。次年度も、多くの参加希望があるよう内容を充実させたい。	
	①保護者に有効な情報を、ホームページ等において知らせる。 ②PTA役員の負担軽減のために、PTA役員関連の行事の見直しを図る。	①②適切に実施することができた。		

ウ 教務・情報課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策	
1 生徒の多様な進路目標の実現につながる教育課程を編成することで、主体的に学ぶ意欲・態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>新学習指導要領による教育が開始されるので、教科会の実施は何より重要と考える。優先度を上げて教科会を持つべきではないか。</p> <p>本校の9割以上の生徒が、大学進学を希望している実態を踏まえ、関係学年・課との連携を図り生徒の進路希望把握に努める。また、大学入試改革(共通テスト等)や新学習指導要領に対応するため、適宜、教科会や教育課程検討委員会、職員会議を開催し、教育課程の編成に細やかに対応したい。</p> <p>生徒の実態や大学入試制度改革への対応を図りつつ、幅広い進路志望に柔軟に対応できるような教育課程を常に見直していく必要がある。そのため、各学年や関係する課との連携を図り、学校全体で見直しを図ることができる体制づくりが重要である。</p>	
	①本校の教育課程について、「生徒の進路目標に対応し、個性を伸ばし将来の希望を実現できるよう工夫されている」と回答した割合が80%以上である。 ②教育課程検討委員会、職員会議等の開催回数を学期に1回以上確保する。 ③教科会の開催回数を月に1回以上確保する。	①本校の教育課程について、「生徒のニーズや希望を実現できるように工夫されている」と回答した者 (H30→H31(R1)最終の比較) ○教員 92.9%→90.7% ○生徒 81.4%→84.3% ○保護者 86.3%→86.4% ②職員会議、教育課程検討委員会は学期に各1回以上確保できた。 ③教科会は各教科月1回以上はできなかったが、必要に応じて開催された。	(評定) B		(所見) コース・科目選択については、予備調査を6月、9月、10月と3回実施したり学年集会での周知、該当生徒を集めての説明会と複数回にわたり、説明し、データ分析等を実施した。しかし、多様な生徒の希望に対応できるよう教育課程で自由選択科目を設けているが、少人数での開講が希望に沿えないという問題点がある。また、本年度も時間割の中に各教科会の時間を設け、教科会の開催しやすい環境を作った。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①各学年や各課と連携し、生徒の学力や進路希望調査等を分析し、可能な範囲で履修学年や開設科目・履修単位数を見直す。 ②教育課程や大学入学共通テスト等に関する情報提供・交換や共通理解を図り、生徒の実態把握に努め、適正な教育課程を編成する。	①生徒の成績や進路志望等について学年や各課と情報を共有し、生徒の進路目標や実態に即した教育課程や学校設定科目の設置を行った。 ②教育課程検討委員会、教育課程に関する職員会議等の機会を活用し、共通理解を図った。また、コース・科目選択予備調査を3回以上実施し、生徒の実態把握に努めた。(6月・9月・10月)			
2 生徒の目標を明確にさせ、主体的に学ぶ姿勢を育成することで、学習意欲の向上や学力向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>社会人となった自分も考えた上での学習意欲向上の取組を考えることが必要ではないか。</p> <p>基礎学力不足や、学習意欲不足、明確な目標を持たずに入学してくる生徒の増加が課題である。各課や学年と連携を密にし、適切な時期に学習に対する意欲付けや進路目標を設定できる機会を設けられるよう、行事計画を見直すことも重要である。1学期に比べ、2学期は進度も速くなり、学習内容も難しくなることも影響すると思われるが、夏季休業中から2学期にかけて、中だるみや目標を見失う生徒が増加することも欠点保持者数の増加の原因の一つと考えられる。粘り強く学習意欲の喚起を</p>	
	①教員において、「教科指導における基礎基本の徹底を図っている」と回答した者及び「学習意欲の向上や学力向上への取り組みができています」と回答した割合が95%以上である。 ②各定期考査において、欠点保持者数が10%以下である。 ③各定期考査において、成績優秀者(80点以上)の割合が、25%以上である。	①教科指導では、基礎や基本の徹底を図っていると回答した教員。 (H30→H31(R1)最終の比較) 98.1%→100% 学習意欲の向上や学力向上への取組ができていますと回答した教員。 94.4%→95.3% ②各学期末における欠点保持者の人数と割合 (1学期末→2学期末) 1年(4.3%→5.6%) 2年(2.9%→3.2%) 3年(5.0%→8.5%)	(評定) B		(所見) 全学年で、欠点保持者数は1学期末から2学期末で増加となっているが、3学年とも10%以下である。また、各学期において成績優秀者25%以上を達成できた学年はない。また、欠点をとる生徒の固定化や複数の科目で
	活動計画	活動計画の実施状況			

		③各学期末考査における成績優秀者割合 (1学期末→2学期末) 1年 (23.6%→18.9%) 2年 (27.4%→23.7%) 3年 (23.0%→19.6%)	の欠点など個々への対応が年々必要になってきており、基礎学力や学習習慣が十分身につけていない生徒への対応が急務である。		行い、スモールステップで目標達成を実感させる取組を継続して行うことが重要である。 本校は、進学校であり生徒の進路目標は大学進学ではあるが、生徒の学習実態が伴わない。学習習慣の定着を図り、基礎学力を定着させるために、各教科、学年、各課の連携とともに、家庭との緊密な連携が重要である。
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①研究授業週間を設けて(年間2回)、各教科における目標や効果的な指導方法等についての研究を行う。その際、授業評価を行うことで、指導方法の工夫や授業力の向上に努めるとともに、本校生徒の実態や課題について共通理解を図る機会を確保する。 ②各学期末考査前に「弱点教科補強指導講座」を開講し、苦手科目についてのポイントを指導することで、家庭学習の援助を行う。また長期休業中に「基礎学力養成講座」を開講し、基礎基本の定着に焦点を絞り、苦手科目の克服への援助を行うことで、欠点保持者数を減少させる。 ③集会等の機会を捉え、継続的な学習及び意欲の向上についての啓発を行う。	①授業参観週間を1学期、2学期にそれぞれ2週間実施した。教科の教員と希望者による授業見学・評価を実施し、評価シートに所見を記入し授業力向上を図った。また、平成29年9月より電子黒板が設置され、教科内でICT機器を活用した授業の研究を行った。 ②1学期末考査及び2学期末考査の前1週間に「弱点教科補強指導」を開講した結果、中間考査に比べて期末考査の欠点者数の減少につながった。しかし、学期間では1学期に比べ2学期は欠点者の増加がみられた。 ③学年集会や学期末の各課連絡の機会を生かして、学校生活や学習習慣、学力向上等についての啓発を行った。			
3 生徒が明確な目標を持ち、主体的に学ぶ態度の育成ができる学習環境づくりや学校運営を行う。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		面接週間は、短縮授業とし会議を設定しないよう配慮しているが、十分な時間とはいえない。生徒の進路目標や学習実態把握等の生徒理解や、適切なサポートができるよう、今後も行事計画の見直しや精選、関係学年・課との連携を図り、調整をする必要がある。生徒理解に充てる時間確保のため、校務の情報化や見直しなど学校全体で検討することも必要である。
	①年間行事計画を見直し、生徒の進路目標等、生徒理解が可能なように年間3回の面接週間を確保する。 ②1・2年の年間授業時数が法定時数の85%以上である。	①各学期1回の面接週間(1週間)を確保した。 ②平成31年(令和元年)度のデータはなし 平成30年度は1年 85.6% 2年 83.4% 平成29年度は1年 84.0% 2年 82.9%	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 年間3回の面接週間の確保や各月1回の校務運営委員会は達成できた。また、年度途中のためデータはないが、本年度は授業カットや短縮授業をできるだけ抑えたので昨年以上に授業確保もできた。 学校支援システムについては、システムの操作性も年々良くなり、ほぼ円滑に運用できるようになった。		
4 学校支援システムの適正運用に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		学校支援システムを活用するために、出欠処理や成績処理以外の機能や大学入試改革や新学習指導要領にともない調査書等が変わることなど、常により理解を深めるよう努めていく必要がある。
	①期限までの出欠入力が100%である。 ②期限までの学事処理が100%である。	①期限までに全て完了した。 ②期限までに全て完了した。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 帳票がスムーズに出力できるよう、出欠未入力について連絡を毎週行っている。		
	①1週間単位で出欠未入力を連絡する。 ②入力方法についての研修や案内をテスト時や期末に必要なに応じて行う。	①毎週実施した。 ②中間考査時に研修を実施した。			

エ 国際交流課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標(と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 国際交流に積極的に取り組み、グローバルマインドを醸成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	徳島北高校らしい取組となっている。継続され、海外からの留学生徒の積極的な受入は、本校生の意識を高めるのに効果的である。

ドを持った生徒を育てる。	①アンケートにおいて「国際交流関連事業は、グローバルな視野の育成や異文化理解に役立っている」と回答した生徒が60%以上である。	①「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた生徒は78.3%、保護者は88.8%となった。	(評定) A	ること、更に成果を上げ ることを期待する。	果的である一方、留学生の資質で生徒に悪影響が出る場合も考えられるので、今後どのような留学生を受け入れるべきか、できるだけ選ぶ段階で関わり本校職員の意見を取り入れていくことが大事であると考ええる。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) いずれの交流においても、挨拶や表面的な交流にとどまらず、国際社会問題や個人的な事柄など様々な知識を背景にした意見交換を即興ですることが少しずつできるようになってきた。		
2 異文化の中で生活できる機会を提供する。	①外部講師等を招いて、グローバルな視点で社会事象を捉えたり、発信したりする。 ②海外学生等を受け入れ、国際英語科、普通科ともに異文化を学ぶ。 ③海外高校生とのICT交流を通して異文化理解を深める。	①四国大学の先生を迎えてディベートの授業を実施。身近なことから社会問題まで幅広く英語で意見を述べたり説明したりする機会を持った。 ②短期留学生としてドイツ高校生15名ニュージーランド高校生1名、台湾高校生18名が来校。長期留学生としてアメリカ高校生1名、デンマーク高校生1名が来校し、交流。10月イングリッシュデイでは92名のALTを迎えて、英語活動を実施。 ③オーストラリア高校生とICTを用いた交流を実施。	(評定) A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度は本校の語学研修に合計63名の生徒が参加する予定。現地担当者が途中で代わり、情報共有ができていなかったところも再度確認し、安全な研修の実施の準備に努めた。また、本校生で長期留学をした生徒は3名いたが、継続的にメール等で様子を確認し、生徒本人と北高とのリエゾンを保つことができた。		
2 異文化の中で生活できる機会を提供する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		海外の担当者は、時間を守らなかったり、内容がいい加減であったりすることが当たり前なので、こちらの意図をしっかりと伝えつつ、よい関係を保つことが必要である。
	①海外研修（語学研修・派遣を含む）の参加者で「満足した」と答える生徒が90%以上である。	①AU語学研修においては100%の生徒が満足したと回答した。(NZ語学研修においては実施前なので不明)	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 今年度は本校の語学研修に合計63名の生徒が参加する予定。現地担当者が途中で代わり、情報共有ができていなかったところも再度確認し、安全な研修の実施の準備に努めた。また、本校生で長期留学をした生徒は3名いたが、継続的にメール等で様子を確認し、生徒本人と北高とのリエゾンを保つことができた。		
	①より安全にプログラムを遂行するために、現地との連携や情報収集に努める。 ②海外研修の説明会など情報提供を充実させる。 ③事前指導を3回以上実施し、より充実した体験ができるよう準備する。	①安全にプログラムを遂行するために、現地との連携や情報収集に努めた。 ②研修引率経験の多い先生を校外から迎え、情報提供を充実させた。 ③事前指導を5回実施し、生徒の準備をサポートした。また、AU語学研修においては保護者説明会を3度実施した。			

オ 図書課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策	
1 図書館の利用をとおして、学力の基盤となる読書習慣の育成を図り、将来にわたって主体的に学ぶ態度や読書を楽しむ態度を身につけさせる。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	授業への活用をきっかけに、自主的な調べ学習や読書活動に結びつきたい。主体的な学習をするには様々な資料や情報の窓口としての図書館活用は避けられないはずである。 総合的な探究/学習の時間の活用の幅はさらに広げる必要がある。 昨年に引き続き3学年のクラス読書会を5月に計画したが、時期としてはよかったと思われる。クラス読書会は、集団読書テキストだけでなく、調べ学習的な読書でテーマに沿って話し合いもできる学習的な読書会も提案したいが、実施までの準備作業を指導者にお願ひしなければならないのが課題である。 国語辞典を昨年度よりも国語科の寄贈等で増やした。辞書の引き比べ	
	①一人当たりの図書館の年間利用回数が、8.0回程度である。 ②授業での図書館利用が、80回程度である。 ③各教科や総合的な学習（探究）の時間に、図書館を利用した授業や図書館の本を活用した授業を推進する働きかけを学期に1回する。	①入館者はH30年度は8,850名、R元年度は8,543名である。本年度の1人当たりの図書館の年間利用回数は9.0回で、昨年度より0.2回減少したものの、目標は達成できた。 ②授業での計画的な図書館利用が増え、95回利用された。昨年度より10回の増加であった。 ③「購入希望図書カード」を学期に1回程配付して図書館や図書館の本を利用した授業の推進を図った。団体貸出数は9冊程減少したが、個人貸出数は541冊増加し、総貸出数も532冊増加した。	(評定) B		(所見) 授業での図書館利用推進や「図書館だより」「新着図書案内」の教室掲示やホームページでの広報、各読書関連行事での読書推進活動、図書館内外の展示の工夫等が功を奏して個人貸出増加にも結びついたと考える。 しかしながら、今の高校生は読書時間が減っている傾向は続いているので、今後も生徒の自
	活動計画	活動計画の実施状況			
	①(7)各生徒の進路に応じて読んでおくべき本や、楽しめたり、教養を養える本を充実させ、「図書館だより」・	①(7)「図書館だより」を図書委員のおすすめ本も掲載し、2か月に1回「新着図書案内」を			

	<p>「新着図書案内」や館内・館外掲示で広報する。また、各テーマの企画展示や特集など、わかりやすい館内・館外展示を工夫する。</p> <p>① (イ) ホームページに掲載できる情報は提供し、より多くの生徒達に学校図書館に関心を持ってもらう。</p> <p>① (ウ) ビブリオバトルや読書会、図書館展示等の図書課や図書委員会主催の企画を広報し、多くの人に参加してもらったり、来館してもらう。</p> <p>② (ア) 各教科の先生方に、授業に活用したい本や生徒に読ませたい本の購入希望図書カードを配付して、図書の利用の推進を図る。</p> <p>② (イ) 図書館を利用した授業を、国語科・総合的な学習(探究)の時間をはじめ各教科と連携して、読書活動や調べ学習を推進する。</p> <p>③ (ア) 図書館の利用状況、貸出状況を「図書館だより」等で先生方や生徒に適宜知らせ読書活動の活性化を図る。</p> <p>③ (イ) 貸出の少ないクラスには、各方面から働きかけ、学年・クラス・教科等の組織的な対応を依頼する。</p> <p>③ (ウ) 長期延滞者に対しては、丁寧な粘り強い指導をして改善を図り、継続的な貸出につなげる。</p>	<p>月1回発行して貸出推進に努めた。各テーマに応じた企画展示や特集展示などを、館内や館外に新しく入れ替えながら工夫した。文化祭展示や読書週間の企画に図書委員や先生方のおすすめ本を紹介文と共に展示した。先生方の推薦本はリストにしてまとめた。また、小論文対策や入試対策の推薦図書もリストにして展示した。</p> <p>① (イ) 家庭においてもより読書に関心を持ってもらえるように「図書館だより」や「新着図書案内」をホームページにあげた。</p> <p>① (ウ) ビブリオバトルや読書会、図書館展示等の図書課や図書委員会主催の企画を広報して参加者や来館者を増やした。また、ビブリオバトルでは県大会に2名が優秀賞を得た。</p> <p>② (ア) 「購入希望図書カード」を学期に1回配付した。購入図書に関心を寄せてもらえた。</p> <p>② (イ) 国語科をはじめ、総合的な学習/探究の時間等に、授業利用が昨年度より増やせた。</p> <p>③ (ア) 学期に1回職員会議で図書館の利用状況、貸出状況を先生方に知らせた。また、生徒には2か月に1度の「図書館だより」を教室掲示して関心を持ってもらった。</p> <p>③ (イ) 「図書館だより」に各学年ごとの貸出冊数BEST3を掲載してクラスとしての読書活動推進を考えてもらった。</p> <p>③ (ウ) 多方面からの働きかけで粘り強い指導が必要であったが、成果が見られた。</p>	<p>主的な読書活動を推進していく取組は、さまざまな工夫が必要であると感じる。</p>		<p>も含め、利用を推進したい。</p>
<p>2 生徒が新聞記事を読み活用するきっかけづくりをする。</p>	<p>評価指標</p> <p>①アンケートで「新聞を読み活用することは有意義であると思う。」と答えた生徒が60%以上である。</p> <p>②図書委員の協力を得て、気になる新聞記事や注目の新聞記事を月1～2回は展示する。</p> <p>③授業の中での新聞記事の活用をお手伝いし、学期に1回以上活用する。</p> <p>活動計画</p> <p>①新聞を読み活用しやすい図書館内の環境を整える。</p> <p>②図書委員の活動の一つとして、図書委員が選んだ新聞記事を、関連する本や資料とともに展示する。</p> <p>③新聞活用を推進し、新聞感想文を書く期間には特に、切り抜き可能な新聞を図書館に置く。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①「新聞を読み活用することは有意義であると思う。」と答えた生徒は81.2%であった。</p> <p>②月2回程度輪番制で気になる新聞記事や注目の新聞記事を切り抜き展示することで、生徒に新聞記事に関心を寄せてもらう推進ができた。</p> <p>②図書館に切り抜き可能な新聞を月ごとにストックして先生方の授業等への利用のお手伝いできた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①新聞を読みやすい机のスペースを作った。</p> <p>②輪番制でもらったので、大きい負担感無く、図書委員自身も新聞記事に関心を寄せるきっかけになったように思う。</p> <p>③特に新聞感想文コンクールの作品を書く時には、授業での図書館利用が多くあった。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>昨年度より増して先生方も新聞の活用をしている。図書委員も気になる新聞記事を輪番制で切り抜いて掲示したり、文化祭で社会問題のまとめに用いて展示することができた。今後も図書館に新聞を置くことで、有効に活用してもらいたい。</p>	<p>素晴らしい取組ができている。</p>	<p>家庭では新聞を読む機会をあまり持っていない生徒が多いようであるが、読み活用することは有意義であると捉える生徒は8割を超えている。次年度も活用していく場所として図書館を機能させていきたい。また、読みやすい設置場所をさらに工夫したい。</p>

カ 生徒課

* 総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
<p>1 生活習慣の確立を図り、健全な生活態度を育成する</p>	<p>評価指標</p> <p>①頭髪・服装の違反者を減少させ、再点検指導生徒の割合が1.0%以内である。</p> <p>②遅刻者の数が、昨年度より5.0%減少した。</p> <p>③教員による登校指導を月1回、生徒による「あいさつ運動」を学期に1回実施する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①再点検を実施した生徒は5名(0.5%)であった。</p> <p>②2学期末の状況で遅刻数が283(47%)減少した。</p> <p>③学校安全の日における登校指導や学期に1回の挨拶運動を計画通り実施できた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>①服装頭髪について数値目標を達成することができた。</p>	<p>①服装頭髪が大きく乱れている生徒はいないが、スカート丈を短くしている生徒や登下校時にブレザーを着用していない生徒、またカラーリップを付けている生徒が少数見られる。月初めの点検時だけでなく、常日頃から清潔感のある身だしなみができるように連携協力をはかりたい。</p>

	活動計画	活動計画の実施状況			
	①月初めのクラス単位の服装頭髪点検、学期初めの学年一斉指導を実施する。常日頃から清潔感のある制服の着こなしができるように、学年団と連携・協力をしながら常時指導を徹底する。 ②遅刻指導週間を実施するとともに、多遅刻生徒の指導を徹底する。 ③生徒会や生活委員と協力しながら自発的な挨拶を喚起する。	①学期はじめの全体指導やクラス単位での点検を計画通り実施、また廊下等での常時指導により、極端に服装頭髪が乱れた生徒はいない。 ②月に5回以上の遅刻をした生徒が2名いた。雨天時や早朝補習のない日に遅刻が増加している。 ③本年度生徒会や生活委員による挨拶運動が実施できなかった。	②遅刻の数が昨年に比べて半数近くに減少した。特に2年生の遅刻数が少なかった。 ③教員側からの挨拶に対応する生徒は多いが、元気よく自発的に挨拶ができる生徒はまだ少ない。		②雨天時や早朝補習がない日に遅刻が増加するといった傾向は解消されていない。 ③生徒会や生活委員による挨拶運動について実施したいが早朝補習や定期考査等があるため実際の運用が難しい。
2 交通ルールを遵守させ、安全意識の向上を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	自転車通学状況については良いとはいえない。特に狭い歩道の並進は大変危険であるが、運転者にはその自覚がないと思われる場面も多々見られる。 自転車のマナーについて、警察・家庭・学校の連携を取ることが重要である。保護者にPTA総会などで呼びかける必要がある。	①本年度は自転車による交通事故が多く発生した。今年度は1年生を対象に交通安全教室を行ったが、来年度は全校生徒を対象に行きたい。事故状況を見ると、交差点における前方確認不足や生徒自身の不注意が原因となったケースがほとんどであった。また、正門周辺の街灯の小ささも一因と考える。
	①自転車交通事故数が10件以下である。(昨年度17件)	①自転車交通事故が11件増加した。	(評定) C		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 交通事故の原因についてはほとんどが不注意によるものであった。今年度1年生対象に交通安全教室を行ったが全学年に行いたい。また、事故が起こった際の対応についても注意したい。		
3 携帯電話の安全な使い方を通して、情報モラルの育成を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	高校生であっても家庭での指導をしっかりと行っていただく必要がある。	①ほとんどの生徒がスマートフォンを所持し使用しているが、それぞれの使用方法やトラブル等の把握が困難であるため生徒の実態が正確につかめない。指導する側も関係機関の協力を得ながら生徒の実態把握に努めたい。 ②SNSによるトラブルが多く発生している。特に写真や動画等のアップによるトラブルが多い。日頃から情報モラル教育が必要である。
	①携帯電話の安全な使い方についての講演会を年1回以上実施する。	①計画通りdocomoによる携帯電話安全教室を実施した。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①スマートフォンによるトラブルが4件発生した。ほとんどがSNSによるトラブルであり根強くスマートフォンの使用に関するマナーを注意していきたい。 ②スマートフォンが関係した問題行動やトラブルが増加しているが、生徒の実態把握が難しい。		

キ 人権教育課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 ホームルーム活動（人権）の他、委員活動や日々の活動など様々な機会をとらえて生徒の人権意識の高揚を図り、啓発活動に努める。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	「人権委員会だより」は、昨年に引き続き、演劇鑑賞の感想の特集号を作成するなど内容の工夫をしたが、目標数値に届かなかった。次年度は教室掲示だけでなく個別配布するなど、もっとホームルームでアピールできる機会をつくりたい。 生徒が主体的に取り組むホームルーム活動を進めるため、教員のホームルーム活動事前研修会の充実を図りたい。
	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合が80%以上である。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合が60%以上である。	①「人権意識が高まった」と答えた生徒の割合は81.7%であった。 ②「人権委員会だより」を読んでいる生徒の割合は54.4%であったが、前年度より1.2%であるが増加した。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①について、生徒が身近な問題を題材にした演劇鑑賞会を実施するなど、生徒の感性に訴える行事があったこともあり、人権意識が高まったと思われる。ホームルーム活動（人権）では	
	①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせる。 ②「人権委員会だより」を生徒主体で作成し、ホームル	①ホームルーム活動（人権）や行事等で、自分の意見を発言し、他人の意見もしっかり聞くことができるなど、生徒に主体的に参加・体験をさせた。		

	ーム活動などを利用して、人権委員に朗読させるなど生徒主体の活動を実施する。	②担当教員と内容について話し合いながら「人権委員会だより」を生徒主体で作成した。ホームルーム活動の展開に利用できなかったが、「ホームルーム活動の振り返り」を記事にして内容の共有化を図った。	級友との意見交換をすることができていた。 ②「人権委員会だより」は、ホームルーム活動の振り返りや演劇鑑賞の感想の特集を組むなどして紙面の工夫をした。読んでいる生徒が微増した。		
2 全職員でいじめ防止をはじめとする人権教育の充実に取り組む。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	引き続き、しっかりと取り組んでいただいた。	「人間への信頼」を生徒の心に醸成できるよう、人権委員会だよりの内容充実や生徒の自主活動を通じていじめを許さない学校づくりを目指す。生徒一人一人を尊重し、また面談等を実施していじめ防止に取り組む。
	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②「学校は好ましい人間関係の構築のため行事やホームルーム活動・授業に真剣に取り組んでいる」と答えた生徒の割合が90%以上である。	①「いじめは人間として許されない」と100%の生徒が認識している。 ②答えた生徒の割合は83.6%であった。	(評定) B		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ②について、目標数値には達しなかったが、昨年より1.3%増えた。教員が日常の言動等に注意を払い指導している姿勢が生徒に伝わっていると思われる。学年別講演会も、生徒の感想文を読むと心に響くものが大いにあったようで好評だった。		
	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるため、ワークショップや講演会などを実施する。 ②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導する。また、生徒一人一人を尊重し、面談等を実施し、いじめ防止に取り組む。	①教育活動全体を通じて、お互いの人格を尊重し合える校内環境をつくるようにした。1年生での人間関係作りワークショップや学年別のいじめをテーマとした講演会を実施した。 ②生徒の日常の言動と行動に注意を払い不適切な場合は指導した。また、必要に応じて担任等と連携し、面談を実施した。			

ク 特別活動課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 学校行事（学校祭・球技大会等）の活性化を通して、生徒の自主的・自律的な行動を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	生徒の主体的な取組ができていたことは、素晴らしい。 ・学校祭の日程について 天候が不安定な時期であり、食品バザーや体育祭などもあることから、日程に苦慮するが、進路指導などの観点から大きく変更することは困難であると考えられる。準備期間が不足しないよう、年度ごとにベストな日程を考えたい。 ・体育祭種目の精選について 悪天候による競技の短縮も考えられることから、競技順序や出場人数、男女比を検討し、かなり改善できたが、年度ごとにベストな種目・日程を考えたい。 ・修学旅行の行先・日程について 修学旅行検討委員会で検討している。普通科・国際英語科ともに北海道方面で、徳島空港発着便がとれるよう日程を工夫していきたい。 ・予餞会について 予餞会の日程、内容も検討を要する時期にきている。従来の伝統を生かしながら、より良い方向性を模索していきたい。
	①学校評価アンケートにおいて、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。 ②学校評価アンケートにおいて、「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」と回答した生徒の割合が80%以上である。	①学校評価アンケートでは、生徒一人一人が自己実現の場として学校行事を位置付け、「自主的・積極的に取り組むことができた」と回答した生徒の割合が86.9%となっており目標を達成できている。 ②学校評価アンケートでは、65.9%となっており目標を達成できていない。昨年度も66.6%であったので、肯定的意見の割合が低い原因を探りたい。	(評定) B	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) ①学校行事において、生徒一人一人が自主的、積極的に取り組むことができていた。アンケートの結果などから、次年度の課題などについても発見できている。しかし、学校評価アンケート「学校行事や生徒会行事には、生徒の意見が取り入れられている」という項目の数値から判断すると、肯定的意見の割合が低いので、生徒の意見を積極的に取り入れていく方策を検討したい。	
2 ホームルームや部活動における友好的な人間関係の構築を中心に、豊かな心を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	北高の良さが伺える結果である。今後もこの良さを保たれることを期待する。 さらに、良好な人間関係構築のために、学校行事等でホームルームや生徒会などで、自主的な活動を推進していくことで、生徒同士の人間関係を深めるようことを検討している。
	①学校評価アンケートにおいて「私は、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。	①学校評価アンケートでは「私は、学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合は、86.9%となっており目標を達成でき	(評定) A	

	<p>②教員及び保護者において、生徒が「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合が80%以上である。</p>	<p>ている。 ②学校評価アンケートにおいて、「望ましい人間関係を構築できている」と回答した割合は、97.6%となっており目標を達成できている。</p>	<p>(所見) 「学校行事や部活動に友人や仲間と協力して取り組み、友好的な人間関係を築くことができた」と回答した生徒の割合が数値目標をクリアしており、学校内における生徒の人間関係は、おおむね良好な状態である。また、「望ましい人間関係を構築できている」と回答した生徒の割合も数値目標をクリアしているので、おおむね良好な状態である。</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況		
	<p>①各ホームルームでの人間関係や生徒会や部活動での学年の枠を超えた人間関係を構築し、豊かな心を育成する。 ②ホームルーム担任や部活動顧問という立場で生徒の人間関係をよく観察し、適切な方向に導くようにする。</p>	<p>①②生徒会と各ホームルームとの連携を図り、各ホームルーム内でのクラスメイトとの関係や部活動での学年を超えた人間関係を密にさせることを目標に取り組んだが、おおむね良好な状態であると考えられる。</p>		
3 部活動の活性化を通して、生徒一人一人の個性や創造性を伸ばさせ、何事にも積極的に取り組む態度を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した生徒、と保護者・教職員のあいだにギャップがあり、かなりの意識の違いがみられる。この原因を究明し、課題解決の方策を検討していきたい。 部活動参加率は高いが、特に1年生は原則全員入部になっているので、登録したものの積極的に活動できていない者もいる可能性がある。来年度は、1年生の原則全員入部はしない方向で検討したい。</p>
	<p>①年度当初の部活動参加率が全体生徒の80%以上である。 ②学校評価において、「部活動は、学校生活を充実させるものとなっている」と回答した生徒の割合が80%以上である。また、保護者や教員の回答においても、80%以上である。</p>	<p>①全体生徒の部活動参加率は93%（ただし重複入部を含む）となっており、目標を達成できている。 ②学校評価アンケートでは、生徒79.8%、保護者92.2%、教職員95.2%となっており、かなりのギャップがある。</p>	<p>(評定) B</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見) 「部活動は、学校生活を充実させるものになっている」と回答した割合は教員・保護者においては目標を達成できているが、生徒においては目標わずかに下回っている。このギャップが生じる原因について検討していきたい。 1学年の原則全員入部が効果を発揮しているが部活動参加率をあげればそれでもいいのか検討が必要な時期にきている。</p>	
	<p>①新入生対象の部活動紹介を充実させる。 ②部活動の活動時間を遵守し、各部で学業との両立が実現できるよう工夫する。</p>	<p>①部活動参加率については、1年生が原則全員入部となっているので、高い割合になっている（重複入部を含む）。 ②部活動の活動時間を遵守し、また各部ごとに適切な休養日を設けるなど工夫している。</p>		
4 国際的視野を持ち、国際社会や地域社会に貢献する姿勢を育成する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>来年度も地球市民講座を開講し、充実したものになるよう内容を精選し準備したい。テーマや講演内容を年度当初から検討していきたい。 生徒会や部活動も、清掃活動などに積極的に取り組んだが、さらに、日常的に校内美化に努められるよう意識改革したい。 各種ボランティア活動にも、生徒会などを中心に積極的に参加できるようにしたい。</p>
	<p>①地球市民講座において事後アンケートを行い「国際的視野を持つことができた」と回答した生徒の割合が80%以上である。 ②生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回計画する。</p>	<p>「グローバルな視野の育成に役立っている」と回答した生徒の割合は78.3%となっており、目標を達成できている。 生徒会主催行事あるいは部活動において地域や社会貢献に通じる活動を年3回以上実施した。</p>	<p>(評定) B</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況	<p>(所見) 本年度も、地球市民講座を実施することができたし、生徒の反応などから、かなり充実した講演会になったと考えられる。 生徒会、JRCボランティア部などが、各種ボランティアや募金活動などにも、積極的に取り組むことができた。とくしまマラソンは実施中止となった。</p>	
	<p>①充実した地球市民講座の内容を精選し計画する。 ②生徒会やJRC・ボランティア部などでさらにボランティア活動に積極的に取り組む。 とくしまマラソンのボランティア参加についても継続する。</p>	<p>①本年度はSDGsについて楽しく学んだ。 ②生徒会、JRC・ボランティア部さらにボランティア活動に積極的に取り組んでいる。とくしまマラソンのボランティアについても参加予定である。</p>		

ケ 進路課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策
1 主体的な学習習慣と確かな学力の育成を図る。 (1) 家庭学習の習慣化を図る。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>学習習慣の確立・定着については、毎年の課題であるが、学校としては粘り強く指導を続けていくことが取り組むことのできる唯一の方法ではな</p> <p>①②③家庭での学習習慣の確立 ・1年生第1学期前半の初期指導が高校生活全般に大きく影響するのは明らかであり、学年や教科と連携して、進路意識の高揚と家庭学習の重要性を繰り返し伝える。特に個人面</p>
	<p>①家庭学習（塾等での学習を含む）1時間以上の生徒が、90%以上である。また、各学年で平均家庭学習（塾等での学習を含む）「(学年) + 2」時間以上の生徒が50%以上である。</p>	<p>①9月の第2回調査では、学習時間が1時間以上は、1年生86.3% (89.6%), 2年生92.2% (86.4%), 3時間以上は、1年生25.2% (41.0%),</p>	<p>(評定) B</p>	

<p>(2) 確かな学力を身につけさせる。</p>	<p>②「午後9時までに家庭学習を始める」習慣が身につけている生徒の割合が70%以上である。 ③「学校の授業内容を理解している」と回答した生徒の割合が80%以上である。 ④1, 2年生の学年単位で、補習の出席率が95%以上である。 ⑤校外模試における各科目の平均点について、校内平均点が全国平均点以上である。 ⑥教員の教科指導研修会への参加率を高め、情報の共有・提供を拡充する。</p>	<p>4時間以上は、2年生 5.8% (24.7%) であった。各学年の平均家庭学習時間が達成できていない。(括弧内は休日) ②1年生70.7%, 2年生65.5%で、概ね達成できている。 ③「理解できている」と肯定的な回答は78.5%で、概ね達成できている。 ④1, 2学期の補習出席率は1年生96.6%, 2年生96.6%で、達成できている。 ⑤11月の進研模試では、1年生:国語+3.9点, 数学+4.1点, 英語+3.8点で全て上回った。2年生:国語+3.9点, 数学+2.6点, 英語+0.5点, 地歴・公民, 理科は日本史B, 現代社会, 地学基礎以外で全国平均を下回った。 ⑥各教科教員が県内外での教科指導研修会等へ累計24回参加した。情報共有のため閲覧資料棚を職員室内に新設し、利用を促進した。</p>	<p>(所見) ①学習時間の確保と伸長が全学年での課題であり、スマホなどを含めた生活全般の見直しが必要である。また休日の過ごし方を含め、自分で主体的に取り組む学習の重要性を認識し、学習時間を確保させる必要がある。 ②部活動後は早く帰宅するなど、時間を有効に使い、遅くとも9時までに学習を開始する習慣を定着させる必要がある。 ③授業の理解度を向上させるためには家庭での予習・復習の習慣化が必須であり、指導方法の工夫やさらなる改善はもとより、生活実態の正確な把握に基づく個別指導をさらに充実させる必要がある。 ④補習の遅刻や欠席が一部の生徒に集中している現状があり、保護者とも連携して粘り強く指導していかねばならない。 ⑤1年次では全国平均を上回るも、2年次になると下回る教科・科目が見られる。家庭学習時間を充実させ、各教科の基本的事項の習得を徹底するとともに、教科バランスを考えた学習・生活指導を行う必要がある。また大学入試改革の動向を注視し、出題傾向や内容の分析を継続し、授業の進め方等についても引き続き研究・改善していかねばならない。 ⑥教科指導研究会等への参加を推進するとともに、情報の共有を教科内でさらに徹底する必要がある。また教科や科目を超えての情報交換も必要で、授業研究会などへの参加を促すために、県内外で予定されている研修会に関する情報を継続して提供していく必要がある。</p>	<p>いかと思う。毎年入学してくる生徒に期待をし、指導を続けて欲しい。</p>	<p>談の機会を重視し、担任から具体的なアドバイスを伝えられるよう、面談で指導する項目やワークシートを学年で統一し、生徒へ提示する。 ・家庭での学習効果やその成果を生徒が実感できるようなテスト(定期考査や実力テスト)を作成・実施する。 ・部活動後の下校時間を徹底する。 ・予習して授業に臨む姿勢を養う。 ・生活実態調査を活用し、個人面談を行う。 ・授業で扱うべき内容を精選し、家庭学習と連動することの重要性を生徒が実感できるように授業研究や改善に取り組む。 ④補習出席率の向上 ・学年や担任と連携して早めの指導を行う。欠席が多い生徒は、放課後学習などを計画する。 ・遅刻指導と同様に、回数に応じて保護者に来校を依頼し、三者面談を行う。 ・余裕を持って登校し、落ち着いて補習に臨めるよう、就寝・起床時刻等を含めて時間の使い方を再考する機会をホームルーム活動等で設ける。 ・補習で扱うべき内容を精選し、生徒がその効果を実力テストや校外模試で実感できるよう計画を立てる。 ⑤模試で通用する学力の養成 ・定期考査や実力テストの問題を分析し、模試や入試につながるよう改善する。 ・模試を分析する学年教科会を実施する。 ・2年生は、理科、地歴の補習を3学期から実施する。 ⑥教員の教科指導研究会への参加 ・県内外で開催される研修会に関する情報の収集と周知を徹底する。 ・情報や資料を共有できるように、紙媒体およびデジタル形式での保管に努める。 ・教科・科目のバランスを注視し、全教科・科目で広く情報を収集できるよう、可能な限りの参加を促す。 ・大学入試改革の情報等を周知・提供し、教科会で話し合うべき議題を具体的に提示する。 ・大学別説明会等に可能な限り参加し、個別大学の入試情報を収集・共有する。</p>
	<p>活動計画</p> <p>①進路説明会等で、家庭学習の現状とその重要性を保護者に十分理解してもらい、協力を要請する。 ②生活学習記録表や生活実態調査を通して、現状の把握に努める。家庭学習が1時間未満の生徒には、保護者と連携しながらホームルーム担任が面談を実施し、原因の解明と改善を図る。 ③「予習」「授業」「復習」の学習スタイルを確立させ、課題や確認テストを実施し、授業内容の理解、定着を図らせる。 ④補習に参加することの重要性を繰り返し指導する。遅刻・欠席が目立つ生徒には、ホームルーム担任、学年主任と連携し、段階的に指導を行う。 ⑤校外模試実施後に訂正ノートを提出させるなど、間違えた箇所の見直しをさせる。教科会で模試の検討を行い対策を練る。 ⑥校外における教科指導研修会の情報を周知し、事後は教科会と資料の閲覧を通して情報の共有化を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①PTA総会と各学年PTAで、調査結果を提示・説明し、現状の把握と協力を要請した。 ②月ごとに学習時間調査の集計表を作成し、個人面談や三者面談を通して、家庭学習の少ない生徒には個別に指導し、改善を求めた。 ③日々題や学習課題、確認テストは各教科が主体となって実施し、学習習慣の定着と学習内容の深化を図った。 ④学年集会や全校集会で、補習の意義や進路意識の高揚について指導した。補習の欠席・遅刻が目立つ生徒には、担任や学年主任と連携して個別指導にあたった。 ⑤模試の過去問題配付や訂正ノートの作成については、教科担任を中心に実施した。成績帳票返却後は資料を作成し、各教科で検討した。 ⑥各教科において年間3回以上の教科会を実施し、指導計画や新入試制度の分析などを行った。</p>			
<p>2 自己のキャリア形成を推進し、早期に進路目標を設定させ、主体的に自分の進路を決定させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>①1, 2年次にオープンキャンパスや看護体験、大学の講座、または体験授業等の活動に1回以上参加した生徒の割合が100%である。 ②ポートフォリオを利用し、校内外での活動の振り返りを行う生徒の割合が100%である。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①オープンキャンパスや各種体験活動等には、83.3%の生徒が1回以上参加し、概ね達成できた。 ②紙媒体もしくはデジタル形式を利用し、100%の生徒がポートフォリオ形式で活動を振り返る</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B (所見)</p>	<p>大学進学を進路目標とするのではなく、社会人としての自分(自分のつきたい職業等)を見据えた目標設定をさせる必要がある。</p>	<p>①③進路意識の高揚と進路目標の設定 ・オープンキャンパスなどは申込期限や受入制限を設けている大学も多いので、早めに情報を提供し、参加を促す。また生徒が主体的に情報を収集するよう指導を継続する。</p>

	<p>③2年生の11月末の進路調査で、「進路目標が明確になっている」と回答した生徒の割合が95%以上である。</p> <p>④英語外部検定試験への対応として、2年終了までに英語の資格試験やアセスメントを受験した生徒の割合が100%である。</p>	<p>ことができた。</p> <p>③1月に実施した進路調査では、2年生の100%の生徒が進路目標を持っていると回答した。</p> <p>④1、2年生の100%の生徒が英語アセスメント試験を受検し、各自の習熟度を客観的に検証する機会をもった。</p>	<p>①HR活動や学年集会での指導を通してオープンキャンパスの参加を推奨した。前年度に比べ、今年度は参加率が上昇した（前年73.1%）。今後は学部・学科研究などを含め、より具体的な進路研究につながるよう、引き続き指導する必要がある。</p> <p>②各種行事や長期休業の際には振り返りシートを配布し、記入と保存を徹底できた。またデジタル形式での保存も併せて推進している。今後も継続し、記載すべき内容やその後の学習活動につなげる指導を徹底する必要がある。</p> <p>③2年生は全員が早期から進路目標を定めている。しかし、安易な選択になっていないか、個人面談を継続していく確認や指導する必要がある。</p> <p>④英語アセスメント試験や外部検定試験の意義を周知し、4技能のバランスが取れた向上を目指して、授業への積極的な取組を継続して指導する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育を充実させ、校外での体験活動や講座などへの積極的な参加を促す。 ・生徒が目標を明確にし、その達成に向けて学力を高めていけるよう全体指導および個別指導を継続する。 ・大学進学希望者に対して、大学入学共通テストの受験を前提に準備に取り組めるよう意識の向上を図る。 ・進路HR活動を充実させ、進路実現のためにしなければいけないことを浸透させる。特に学年、時期に応じて求められる内容を提示し、達成目標を明確にする。 ②ポートフォリオの推進と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオについて、紙媒体およびデジタル形式で併用した保存を継続する。 ・デジタル形式でのポートフォリオの保存状況を定期的に確認し、その入力や保存に関して生徒への個別指導を継続する。 ・個別大学が課す出願書類の形式等に係る情報の収集・分析を行い、作成が必要となるデータ等の整理を推進する。 ・調査書の様式や教員が入力するフォーム等との整合性を確認しながら、生徒が作成したデジタル形式でのポートフォリオの活用方法を具体的に確立する。 ④英語アセスメント試験の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・英語科と協力しながら英語アセスメント試験を継続し、その検証と授業を通じてのフィードバックを徹底する。 ・進路研究において4技能のバランスが取れた向上の必要性を周知し、英語学習の達成課題として外部検定試験を位置づけられるよう取組を促進する。
<p>3 社会に貢献できる人材の育成に向けて生徒の個性や創造力を伸長させ、進路希望を実現させる。</p>	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>総合評価</p>	<p>①②③就職希望生に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職を強く希望する者に対しては、2年生後半から進路決定や試験対策に向けて具体的にサポートする体制、およびプログラムのより一層の充実が必要と考えられる。 ・保護者への情報提供や意向を確認する機会を継続し、就職指導に関する情報の共有に努める。 <p>①②④⑤就職に関する行事等の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職に対する具体的なイメージを抱ける機会を積極的に設けることが必要で、ガイダンスやセミナーをより充実させる。
	<p>①就職ガイダンスや公務員セミナーなどの体験的活動を通して、主体的に自ら考える力を育て、就職を希望する生徒全員が、希望する進路を実現できている。</p> <p>②就職希望者や保護者と定期的に面談を行い、2学期末までに就職未決定者0名を実現できている。</p>	<p>①就職ガイダンスや公務員セミナーでは、情報伝達や意見交換を通じ、就職に向けた心構えの構築を図った。</p> <p>②就職希望者は2学期末までに、全員が就職内定を頂くことができた。</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p>	
	<p>活動計画</p> <p>①望ましい職業観・勤労観の育成に向け、職業別説明会（1年）、公務員セミナー、就職ガイダンス（2年、3年）等の体験活動により職業理解を深め、働く意義を学ばせる。</p> <p>②卒業後就職したい仕事を自らが見つけ、その目標に向け、継続的に努力し、自主的な行動力が身に付くように導く。</p> <p>③企業就職希望者と早い時期から面談を重ね、希望の業種や職種を絞り込み、希望する企業から求人を得られるよう、精力的に職場開拓を行う。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①職業理解や就職に向けた意識作りをたいへん役立った。</p> <p>②就職内定前はもちろん、進路決定後も生徒と話す機会を確保し、社会人としての心構えの育成に努めた。</p> <p>③生徒、保護者と情報の共有や面談をすることにより、早い時期から希望の進路先への職場訪問を行い、企業の人事担当者との人間関係構築に努めた。</p> <p>④5月に公務員対策の専門家の講習会の実施に</p>	<p>(所見)</p> <p>①参加者の中には、受動的な態度で受講する様子も見られる。参加生徒に対しては、就職を目指すことへの意識の高揚を図る必要がある。</p> <p>②セミナー等では、講義形式に終始せず、生徒が当事者意識をもって能動的に臨める態勢を継続していく必要がある。</p> <p>③自分の適性と就職希望先の情報を十分に分析し、望ましいマ</p>	

	<p>④公務員希望者には、公務員試験対策の専門家を学校に招いて講習会を実施し、社会性の確立を目指す。</p> <p>⑤就職・公務員模試を年間6回実施し、進路を実現する確かな学力の向上を図る。</p>	<p>より、採用試験や就職活動に対する意識の高揚を図った。</p> <p>⑤就職・公務員模試は予定通り実施し、就職試験へ向けての学力向上につながった。</p>	<p>ツチングができるシステムづくりが重要である。保護者にも正しい情報を周知する必要があり、情報を提供したり、意向を確認する機会を継続して確保していく必要がある。</p> <p>④公務員試験では、一般教養に加え、数的推理や判断推理などの適性検査対策も必要である。校内でも試験に向けて専門的なアドバイスを受ける機会を増やす必要がある。</p> <p>⑤担任との情報共有に努め、就職を希望する生徒の把握、および学力向上のために年間を通じて支援する必要がある。</p>		
--	---	---	---	--	--

コ 環境・防災課

*総合評価：目標を大きく達成…A、概ね目標を達成…B、目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価	学校関係者評価	次年度への課題と方策	
<p>1 SDGsへの理解を深め、校内外の環境美化及び環境問題に取り組む態度と実践力を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①節電・節水を意識した学校生活を送り、前年度比3%使用量を節減する。</p> <p>②年間3回以上「ゴミゼロの日」を設定し、学校全体で環境問題について考えさせるとともに環境・防災委員以外の個人参加者が毎回60人以上である。</p> <p>③校外で行われる環境美化及び環境問題に取り組むボランティア事業への参加を呼びかけ、年間で15名以上の参加者を募る。</p> <p>④アンケートで「日々の清掃に熱心に取り組み、ゴミの分別を心がけるなど校内美化に協力している」と回答した生徒の割合が85%以上である。</p> <p>活動計画</p> <p>①掲示物や環境・防災委員からの声かけ等により、トイレでの日中の節電や移動教室時の消灯、節水の徹底を呼びかける。</p> <p>②校内及び学校周辺、勝瑞駅等の清掃ボランティア活動を、環境・防災委員や部活動生徒が中心となって積極的に行う。</p> <p>③積極的な案内を行い参加を募る。またその時の感想や体験談を各クラスに知らせる。</p> <p>④総合的な学習（探究）の時間で、SDGsへの関心を高めるとともに知識を深め、身近な環境問題に取り組ませる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①12月現在の比較では、電気使用量約7%減、水道使用量約7%減となった。</p> <p>②今年度3回実施したが、全ての回で60人を上回っており、最も多い時、全体で105人ということもあった。</p> <p>③随時案内はしたが、とりまとめを学校でしない行事は参加者の把握ができなかった。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①環境・防災委員による校内放送での呼びかけや電気及び水道の使用量に関する掲示物などで、節電・節水の徹底を進めた。</p> <p>②今年度も環境・防災委員以外の有志の参加が多く、特に運動部や生徒会の生徒たちを中心に、多数参加してくれている。</p> <p>③感想等を共有する時間を持たなかったが、教室掲示は随時行い、参加者の増加が図れた。</p> <p>④文化祭の展示物で、各自がテーマ設定し、調べ、まとめ、掲示をする過程で関心の高まりが見られた。結果的に総合的な学習に繋がった。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p> <p>（所見）</p> <p>①トイレや空き教室、体育館及び多目的ホールなどもこまめに電気を切ること、更に節電に繋がると考えられる。</p> <p>②今年度も毎回多数参加してくれているが生徒会や運動部が中心である。普段参加していない生徒も1度は参加できるよう工夫したい。</p> <p>③文化祭時には、防災に関する展示及び発表を今年度始めて実施し、テーマ設定からまとめまでの過程をそれぞれが進めて行ったが、丁度、総合的な探究の時間と重なるところもあり、良好な結果だったと考える。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>忍耐の必要な地道な取組が求められるテーマではあるが、一步の前進を目指して諦めない活動を期待する。</p>	<p>次年度への課題と方策</p> <p>①こまめに節電・節水の声掛けや教室掲示などを行うとともに、トイレや空き教室（芸術・体育時など）、長時間使用しない体育館や多目的ホールなどの消灯を実施すること。</p> <p>②校内で行える身近なボランティア活動であることを、掲示物や呼びかけなどで周知し、様々な生徒が参加できるような、状況を作り、参加者のさらなる増加を図る。</p> <p>③案内や呼びかけは継続して積極的に行うとともに、案内をしていない行事に参加した生徒に関しては、1-U Pレポートを提出させる等で、実態を把握していく。</p>
<p>2 防災教育を推進し、身近に潜む危険から自らを守るのみならず、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や地域の安全に役立つことができる人材を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①地震・津波及び地震・火災対応避難訓練を、それぞれ年1回早期に実施する。</p> <p>②環境・防災委員に啓発放送等を行わせて、防災に対する意識を高める。</p> <p>③校外で行われる防災関係の行事を案内し、15名以上の参加者がある。</p> <p>活動計画</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①4月に地震・津波避難訓練を行い、5月には地震・火災対応避難訓練を行った。また12月には想定外大津波避難訓練を実施した。</p> <p>②啓発放送等は充分実施できなかったが、避難訓練等の機会が意識高揚に繋がった。</p> <p>③15名には達することはできなかったが、高校生防災イベントや防災士講習会などに多数参加することができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p>B</p> <p>（所見）</p> <p>①地震・津波・火災対応訓練等の実施時期は定着してきたが、いざという時の職員・生徒の行動に結びつくかという点については不十分である。</p>	<p>学校関係者評価</p> <p>地域の活動とも連携したものとなっているか点検をする必要があるのではないかと考える。</p>	<p>次年度への課題と方策</p> <p>①避難訓練に対して、生徒一人一人が、主体的に緊張感を持って取り組めるようにするため、各クラスの環境・防災委員に対して、事前に内容について周知し、生徒たちで訓練ができるようなスタイルを構築したい。</p> <p>②避難訓練の回数が少ない2・3学期については、防災に関する啓発放送の回数を増やす等のほか、防災に関する新聞記事を利用したり、タイムリーな話題（問題）を提供するな</p>

	<p>学校行事やホームルーム活動の時間を利用し、専門家の講演やDVD等の防災教材により、様々な危険や災害に、自主的に対応できるよう防災意識の向上を図る。</p>	<p>HR活動の中で実施しているのは、津波避難訓練だけであるが、他は特別時間割の行事や長期休業を利用して、非常食作りなど防災意識の向上を図るプログラムが実施できている。</p>	<p>②概ね良好である。 ③今年度は防災に関わる各種イベント等に多くの生徒が参加した。</p>	<p>ど、意識を高める情報を提供していく。</p>
--	--	--	---	---------------------------

サ 保健・教育相談課

* 総合評価：目標を大きく達成…A, 概ね目標を達成…B, 目標を達成できなかった…C

重点課題・重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		学校関係者評価	次年度への課題と方策
<p>1 自分の心や体の健康に関心を持ち、課題解決に向けて実践できる生徒を育成する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①学校評価アンケートにおける「あなたは、自分の心やからだの健康に関心を持ち、健康な生活を送るよう心がけている」に「あてはまる」と回答した生徒の割合が85%以上である。 ②学校評価アンケートにおける「学校は生徒の安全や健康管理に十分注意している」及び「学校では健康や安全に配慮した指導が行われている」について、「あてはまる」と回答した生徒及び保護者の割合が85%以上である。</p> <p>活動計画</p> <p>①生徒保健委員会において生徒の自主的な活動を推進し、学校全体の生徒の保健意識の向上や啓発を図るために、次の活動を行う。 （ア）石けんの点検・補充 （イ）文化祭で健康意識の啓発展示 （ウ）保健ホームルーム活動 （エ）保健だよりのポイント説明・配布 ②生徒の心身の健康管理及び保健指導の充実を図るために、次の活動を行う。 （ア）保健だよりを年間10回以上発行する。 （イ）応急処置を適切に行うとともに、担任や特別活動課、保健体育科等との連携をさらに密にする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①83.0%の生徒が「あてはまる」と回答した。 ②「学校では安全や健康管理に十分注意している」について、生徒の82.5%、保護者の88.4%が「あてはまる」と回答した。「学校では心身の健康や安全に配慮した指導が行われている」については86.4%の保護者が「あてはまる」と回答した。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①（ア）定期的に実施できている。 （イ）本年度は「目の健康」「20歳未満飲酒防止」について展示した。 （ウ）保健委員の進行による保健ホームルーム活動を11月に実施できた。 （エ）「熱中症予防」と「インフルエンザ予防」についてポイントを説明して配布するよう指導できた。 ②（ア）年間10回発行した。疾病の予防や対応についても掲載し、保健意識の向上に務めた。 （イ）生徒の病気やけがの対応は常に連携を取ることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>（所見） 概ね目標を達成することができた。生徒保健委員が主体となって実施する保健ホームルーム活動は、本年度も好評だった。次年度も実施を計画したいと考えている。学校医・学校歯科医とも連携し、更なる保健意識向上のために、成長期にある生徒に必要と考えられるテーマについて取り上げていきたい。 学校保健委員会に生徒保健委員会の代表も参加し、活動を報告した。PTA役員の方からいただいた御意見や御提案を今後の活動に生かしていきたい。 保健だよりに疾病の予防や対応についても掲載し、保護者への啓発も行った。</p>		<p>生徒が自己の健康管理に自主的、主体的に取り組めるよう支援することが重要である。そのためには家庭との連携が不可欠である。本年度の取組は昨年度の学校保健委員会において、PTA役員の方々からいただいた御意見を参考に実施した。次年度もさらに発展させるよう取り組み、その結果を保健だよりに通じて家庭へも報告できるようにしたい。 また、生徒課の交通安全教育や環境・防災課の防災教育、保健体育科の保健学習とも連携を取って保健管理や保健教育に取り組み、これからも生徒が心身ともに充実した生活を送ることができるよう支援していきたい。</p>
<p>2 生徒が心身ともにはつらつとした学校生活を送れるよう支援する。</p>	<p>評価指標</p> <p>①カウンセリングデーで、教員の相談室待機が100%である。 ②不登校傾向にある生徒や気になる生徒の把握をして、カウンセリングの実施等の適切な支援を図る。 ③不適應の症状が見受けられる生徒の把握に努め、早い段階で校内の関係者との連携を図る。 ④人間関係づくりワークショップの実施後のアンケートで「有意義であった」と答えた割合が85%以上である。 ⑤特別支援教育の取組を保護者に説明する機会を持つ。</p> <p>活動計画</p> <p>①カウンセリングデーの広報をする。 ②（ア）課内会議やケース会議を随時開催する。 ②（イ）必要に応じてスクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。 ③担任・学年団や人権教育課からの情報収集に努め、共通理解を図り、生徒の支援をする。 ④人権教育課と協力して、人間関係づくりワークショップの有意義な実施に努める。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①カウンセリングデーの相談室待機は100%達成できた。 ②担任等と適宜連絡を取り、適切に対応した。 ③スクールカウンセラーと連携し、早期に対応した。 ④今年度は徳島大学と連携して実施したため実施後のアンケートはしていないが、感想では「有意義であった」と答えた生徒が多かった。 ⑤PTA総会で本校の特別支援教育の取り組みについて保護者に説明した。3月の合格者説明会の際にも実施する予定である。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①保健だよりに毎月カウンセリングデーの広報や心の健康のためのコーナーを作り、気軽な入室を促進した。また、カウンセラーだよりを発行したり、1年生のオリエンテーション時にガイダンスをしたりして広報した。 ②（ア）課内会議、学年会は適宜行われた。 （イ）月2回来校するスクールカウンセラーと連携し、早期の対応を図った。</p>	<p>総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>（所見） 昨年度からスクールカウンセラーが配置になり、月2回カウンセリングが実施できるようになった。保護者からの申し込みもあり、徐々に浸透してきている。年間2回カウンセラーだよりを発行し、家庭へも活用を働きかけている。 担任からの相談で早期に対応したことにより改善した事例や継続してカウンセリングを受けることにより安定して授業に出られるようになった事例もあった。今後も校内の連携を密にして対応していきたい。 特別な支援を必要としている生徒に対して、校内及び関係機</p>	<p>発達障害や性的少数者からの相談体制について点検する必要はないか。</p>	<p>スクールカウンセラーが配置されたことにより、教育相談の体制が大幅に充実してきたと思われる。継続的に活用している生徒もいることから、今後の運営のあり方について検討が必要である。 また、教育相談室の環境整備も徐々に整いつつある。今後も効果的にカウンセリングができるよう進めていきたい。 スクールカウンセラーとの連携を中心に、校内の連携はもとより、校外の関係機関とも連携を取り、生徒の支援に繋げるよう進めていきたい。 特別な支援を必要としている生徒が増えている状況にある。個々の状況や場面に応じた柔軟な対応が必要となることから、さらにきめ細かな体制を作り、専門機関等とも連携を取って適切に対応していきたい。</p>

	⑤PTA総会等の機会を利用して保護者に説明する機会を年2回以上持つ。	③適宜連絡を取り、適切に対応した。 ④1年生対象の人間関係づくりワークショップを人権教育課と協力して実施した。 ⑤PTA総会で本校の特別支援教育の取組について保護者に説明した。3月の合格者説明会の際にも実施する予定である。	関等と連携して対応した。		
3 生徒が充実した学校生活を送れるよう支援する。	評価指標	評価指標による達成度	総合評価		<p>厚生委員を中心に、昼食の摂取状況や食堂・パンの利用状況等を調査し、生徒の意見を反映できるようにしていきたい。また、業者と連絡を密にとり生徒に不都合がないようにしたい。セミナーハウスを利用する部活動と連携し、さらに適正に使用できるよう注意したい。清潔な環境を維持するため、今後も定期的に点検を行うとともに、マナーの向上に努めたい。</p> <p>奨学金については、生徒の就学・進路支援のため、書類の不備等がないよう注意し、次年度も適正かつ公正に実施できるように努め、生徒の進路実現に繋がるようにしたい。</p> <p>福祉的な活動として、単に募金活動を行うというのではなく、社会福祉について理解した上で活動することが大切である。そのため、事前に厚生委員会で学習会を行うなど、募金活動の意義や活動等について理解を深めてから実施したい。</p>
	<p>①食堂の営業やパン販売の連絡を100%正確に行い、マナーを守って利用できる。</p> <p>②セミナーハウスの使用について、正しく利用できた割合が90%以上である。</p> <p>③奨学金の事務処理を正確に行い、奨学金を申請する生徒の100%が正しく申し込み、進路実現に繋がれるようにする。</p> <p>④福祉的な募金活動に年2回以上協力する。</p>	<p>①教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。</p> <p>②セミナーハウスは90%以上が正しく利用できている。</p> <p>③100%適正かつ公正に申請できた。</p> <p>④「複十字シール運動」と「手足の不自由な子どもを育てる運動（愛と友情の絵はがき）」「赤い羽根共同募金」「書き損じハガキ等の寄付」に協力した。</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;">B</p> <p>食堂の営業日やメニューの教室への掲示により、生徒へ適切に案内ができた。昨年度途中からパンの販売業者が増えたため毎日利用できるようになった。生徒の利便性を向上させるため業者と連絡を密にとり不都合がないようにしたい。</p> <p>厚生委員による年間2回の大掃除と「セミナー室使用心得」の掲示により、使用状況はよくなったように思われる。今後も利用者が気持ちよく使えるよう環境の整備が必要である。</p> <p>奨学金の申請書類をHR単位で分担し、複数の課員でチェックする体制をとったので、ある程度は負担が軽減された。情報の取り扱いも慎重にできた。</p>		
	活動計画	活動計画の実施状況			
	<p>①営業日やメニューの教室掲示を適切に行う。</p> <p>②(7)定期的に点検を行い、厚生委員による大掃除を年2回実施する。</p> <p>②(イ)「利用心得」を掲示することで、使用の際のマナーの向上を図る。</p> <p>②(ウ)チェックリストを点検時に活用する。</p> <p>③(7)奨学金の情報提供や連絡を正確に行う。</p> <p>③(イ)個人情報の含まれる書類の取り扱いに十分注意を払う。</p> <p>③(ウ)申請書類を複数体制でチェックする。</p> <p>④厚生委員の活動として計画する。</p>	<p>①適切に案内ができ、正しく利用できている。</p> <p>②(7)1学期末に2・3年生の厚生委員と課員で、2学期末に1・2年生の厚生委員と課員で大掃除を行った。</p> <p>(イ)「利用心得」に沿って使用できており、寝具等も適切に片付けられていた。</p> <p>(ウ)定期的にチェックリストを活用して点検を行った。</p> <p>③(7)情報提供及び連絡を正確に行った。</p> <p>(イ)鍵のかかる専用のロッカーに保管し、封筒に入れる等の配慮をして、書類の取り扱いには十分な注意を払った。</p> <p>(ウ)HR単位で分担し、複数の課員でチェックする体制をとった。</p> <p>④HRで募金活動の意義を広報し、協力を呼びかけた。</p>			